

# 2009 年度

## 日本農業史学会研究報告会

### シンポジウム共通論題:

### 「国有林史料から見た新しい地域史像」

個別報告(午前 9:00 ~ )

- 第 1 報告 9:00 ~ 9:35 「岩手県における開田政策の展開と昭和恐慌 - 稗貫郡宮野目村の耕地整理組合を対象として -」 木村五郎(岩手大学大学院)
- 第 2 報告 9:35 ~ 10:10 「東ドイツ農業集団化における生産計画と資源再編 - エアフルト市 1958 ~ 1965 年 -」 菊池智裕(京都大学大学院)
- 第 3 報告 10:10 ~ 10:45 「近代における野菜種子屋の展開 - 東京府北豊島郡榎本留吉商店を中心に -」 阿部希望(筑波大学大学院)
- 第 4 報告 10:45 ~ 11:20 「秋田藩「能代川上木山」における山林取立と村方余勢」 芳賀和樹(筑波大学大学院)
- 第 5 報告 11:20 ~ 11:55 「1950 - 60 年代における農山漁村青年建設班の構想と展開 政策と青年団運動との間で」 菊池義輝(横浜国立大学大学院)
- 第 6 報告 11:55 ~ 12:30 「幕末の持続的小農経営としての炭生産 幕末の武州秩父郡上・下名栗村のケース」 戸石七生(日本学術振興会特別研究員)・吉田あつし(筑波大学)

シンポジウム(13:30 ~ 17:30)

共通論題:「国有林史料から見た新しい地域史像」

座長 加藤衛弘(筑波大学)

- 第 1 報告 「盛岡藩領五戸通における御山支配と山林利用」 金谷千亜紀(筑波大学大学院)
- 第 2 報告 「青森県下の国有林経営と地域社会」 脇野 博(秋田工業高等専門学校)
- 第 3 報告 「美濃国における木材資源の管理と利用 弘化期「御林帳」を素材として」 高橋伸拓(徳川林政史研究所)
- 第 4 報告 「享保度林・新立林と私林・民有林の形成 木曾官民有区分の一側面」 田原 昇(徳川林政史研究所)

コメンテーター

浪川健治(筑波大学)

2008 年 3 月 27 日(金)

於:筑波大学春日キャンパス講義棟 1 階 102 講義室